

一般廃棄物 処理施設の特徴

①焼却施設

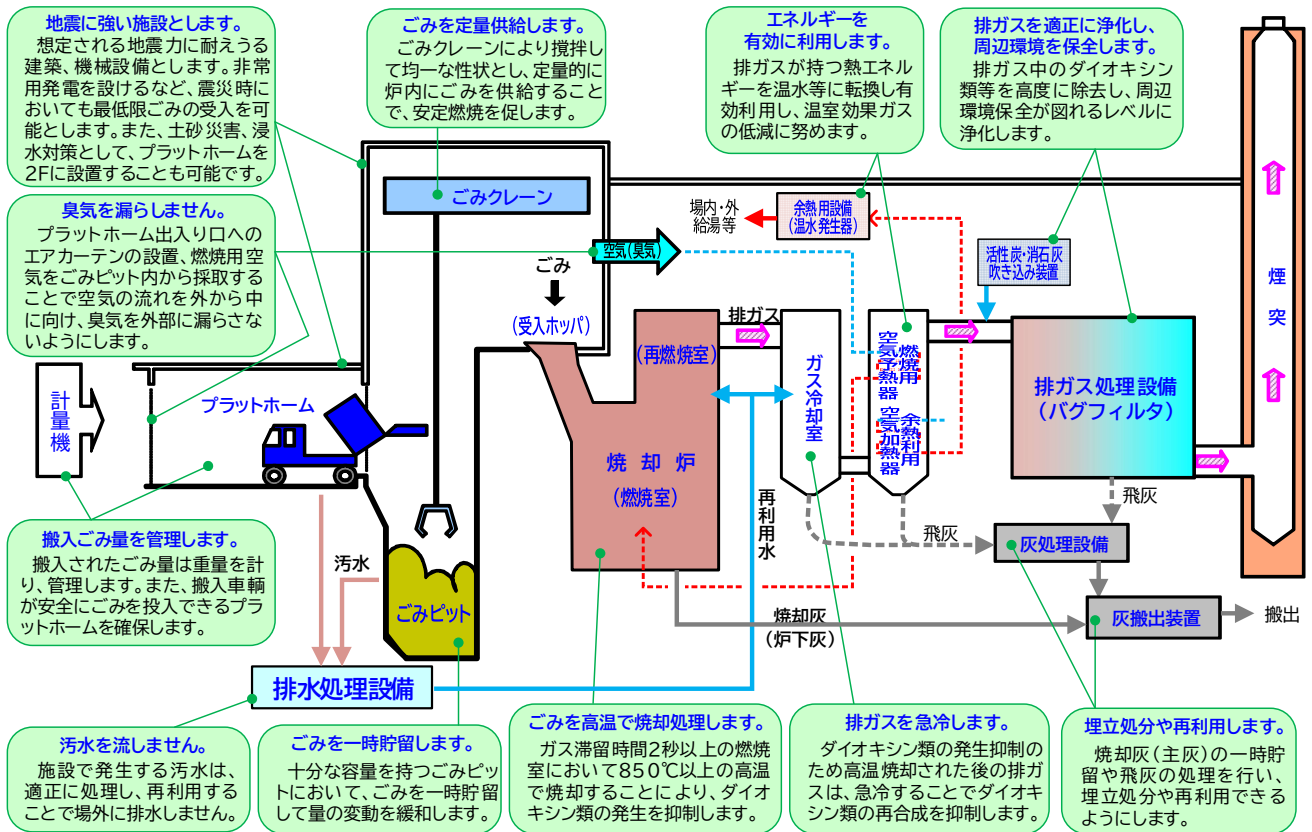
- ◆ 火格子面積 2m^2 以上または、焼却能力(1 炉) 200kg/h 以上の廃棄物焼却炉は、大気汚染防止法の対象となる**ばい煙発生施設**です。
- ◆ 火格子面積 0.5m^2 以上または、焼却能力(合計) 50kg/h 以上の廃棄物焼却炉は、ダイオキシン類対策特別措置法の対象となる**特定施設**です。

排出基準適用表

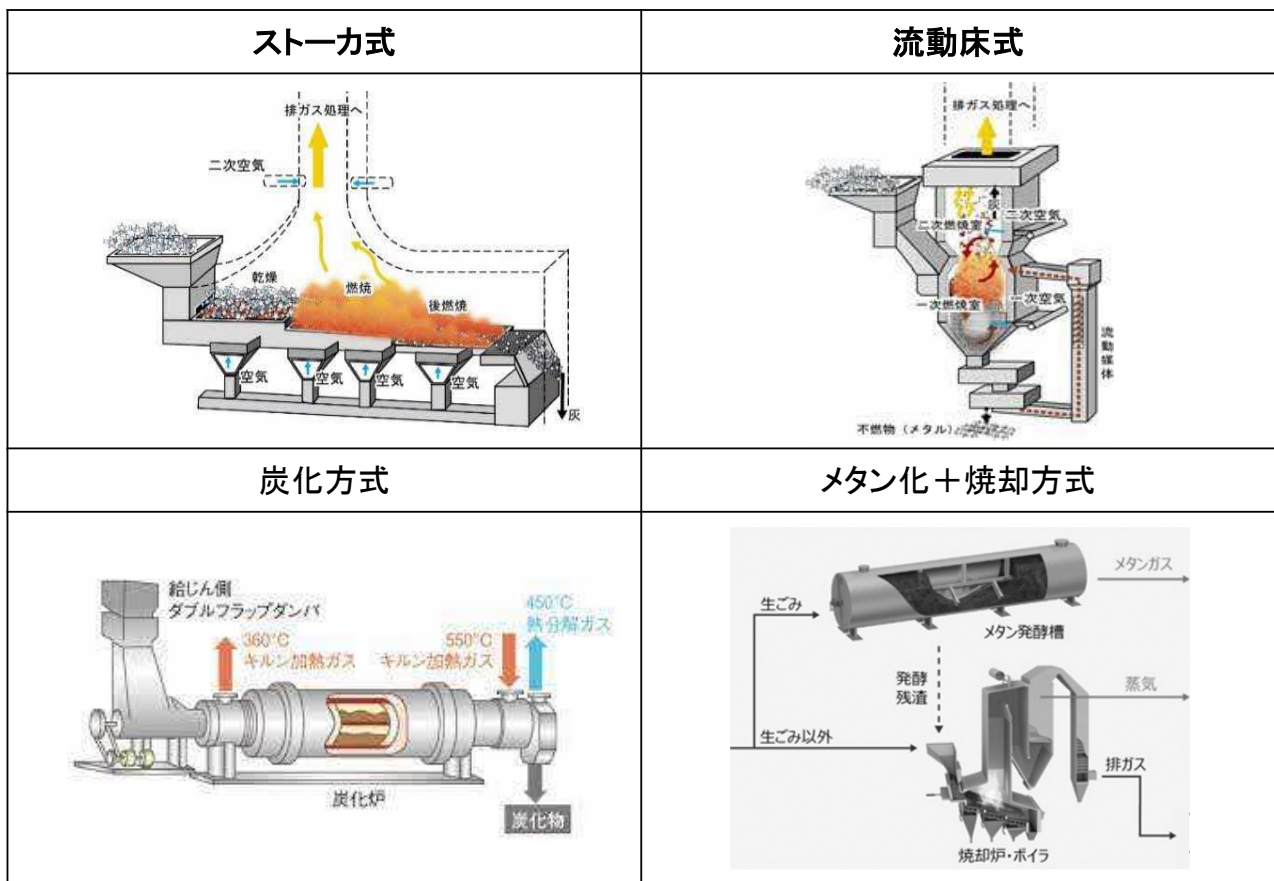
ばい煙の種類		適用項目	基準値 (1炉:19.5t/8h) 4t/h未満2t/h以上	基準値 (1炉:19.5t/16h) 2t/h未満	
排出基準	硫黄酸化物	○	K = 17.5		
	ばいじん	○	0.08g/m ³ N	0.15g/m ³ N	
	有害物	カドミウム及びその化合物			
		塩素			
	害物	塩化水素	○	430ppm	
		弗素、弗化水素及び弗化珪素			
		鉛及びその化合物			
	物質	窒素酸化物 (熱源として電気を使用するものを除く。)	○	250ppm	
		水銀	○	0.03mg/m ³ N	

物質名	適用項目	基準値 (1炉:19.5t/8h) 4t/h未満2t/h以上	基準値 (1炉:19.5t/16h) 2t/h未満
ダイオキシン類	○	1ng-TEQ/m ³	5ng-TEQ/m ³

一般廃棄物焼却施設の基本構造

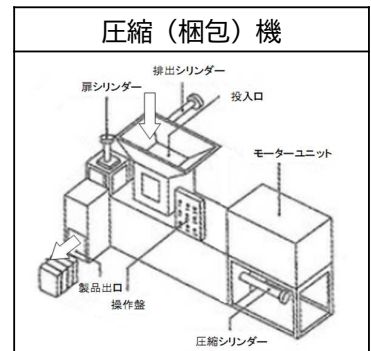
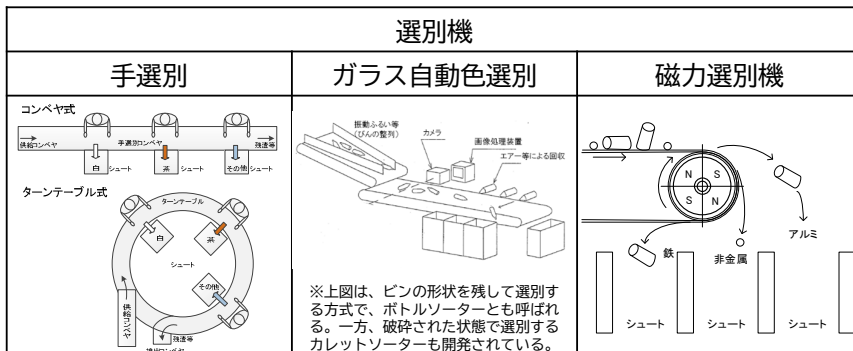
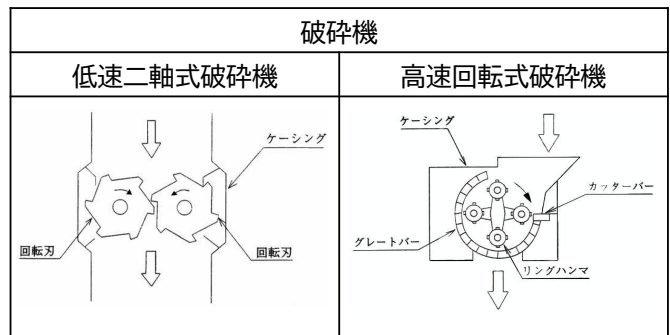
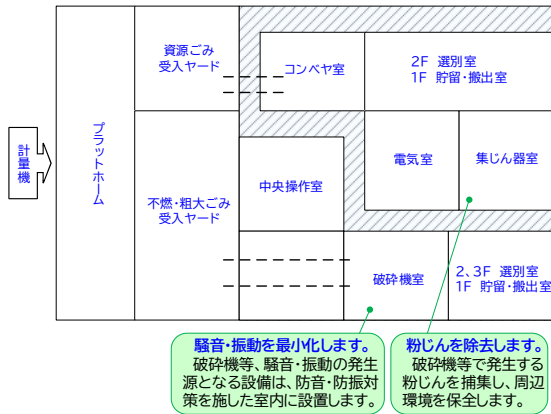


焼却施設の種類



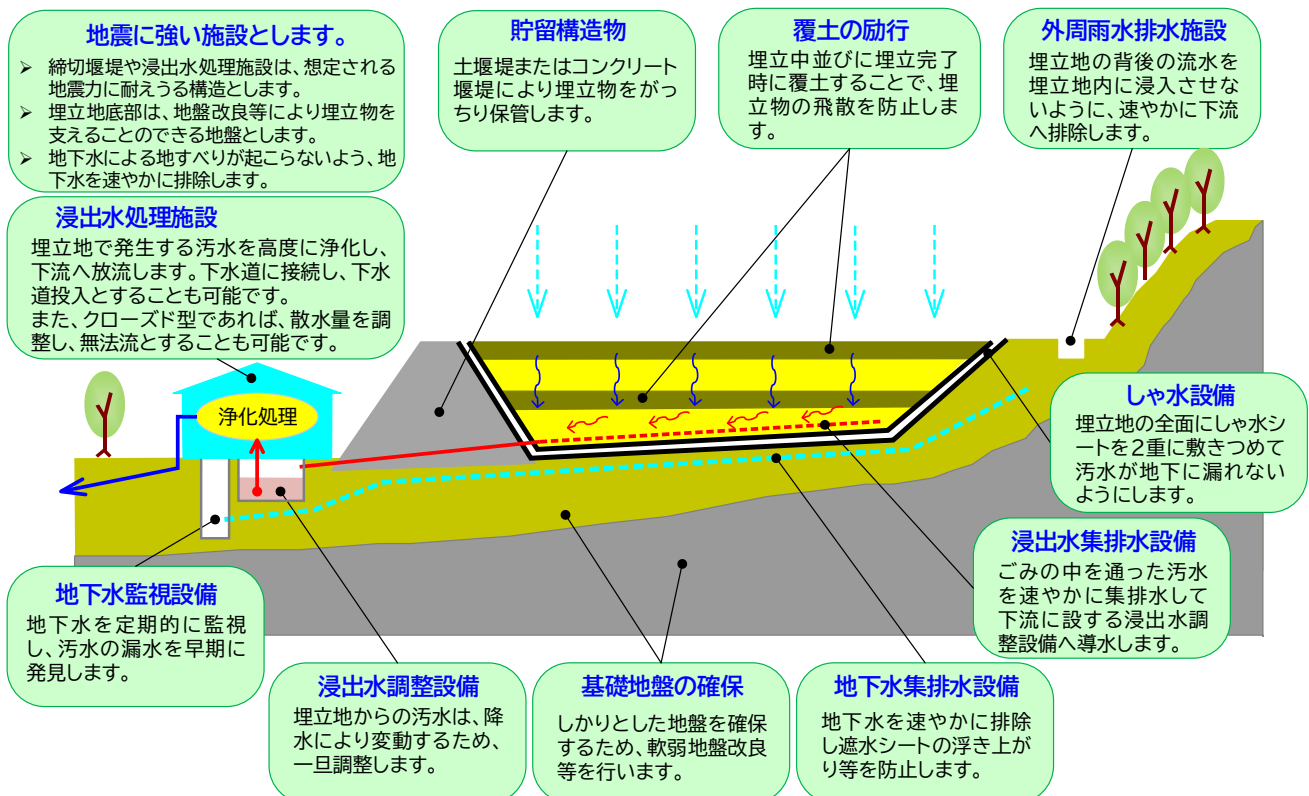
② 破碎・選別施設

破碎・選別施設の基本構造

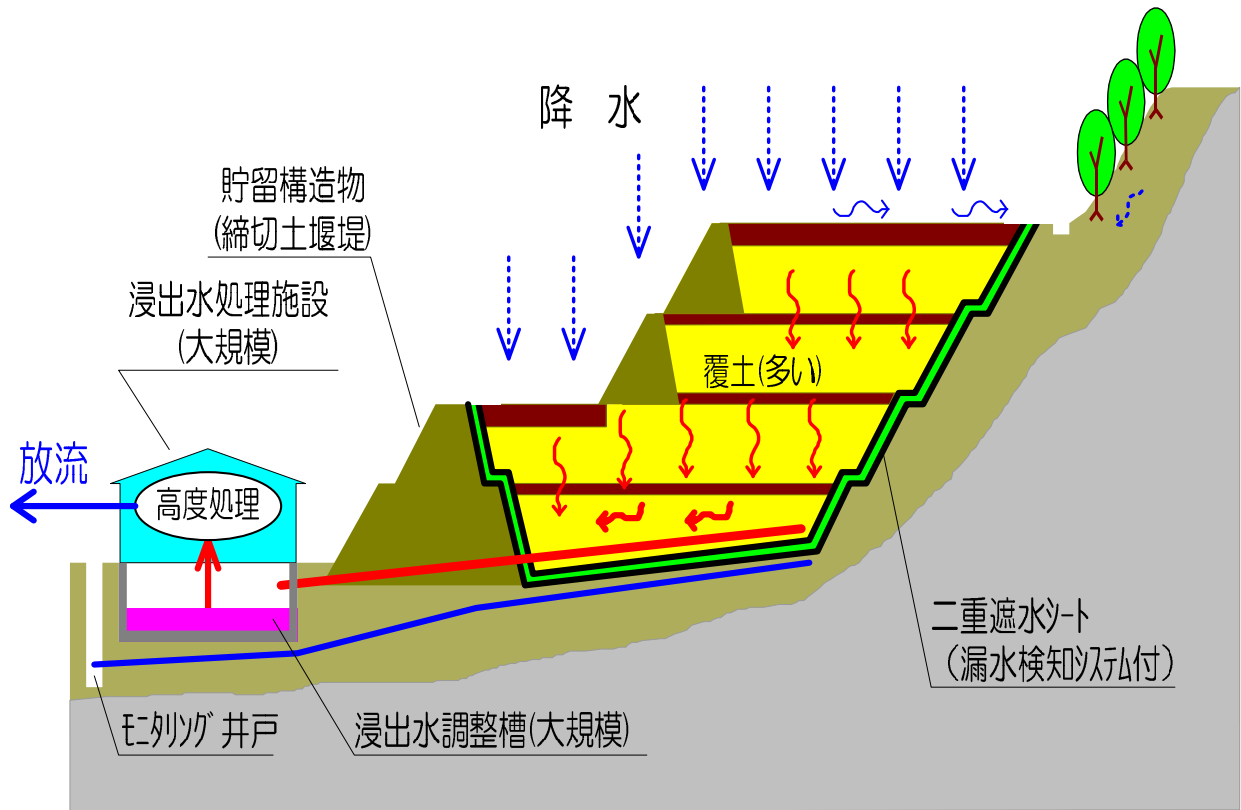


③最終処分場

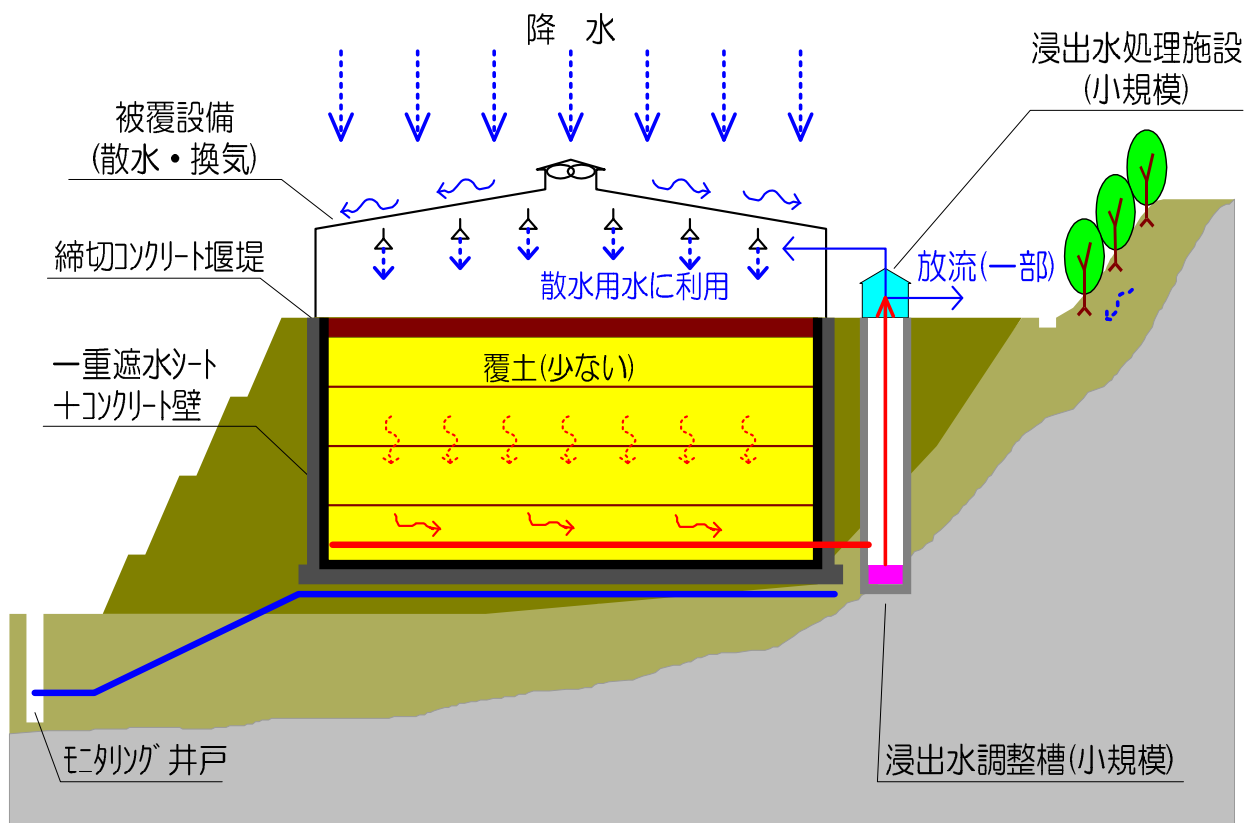
一般廃棄物最終処分場(管理型)の基本構造



オープン型(従来型)処分場



クローズド型(被覆型)処分場



オープン型とクローズド型の比較

	オープン型	クローズド型
経済性	建設費○ 維持管理費×	建設費× 維持管理費○
維持管理性	× 多雨時汚水処理	○
安定化	○	△ 洗出し機能弱
周辺環境保全	× カラス飛来 ごみの飛散	○